森林と人をつなぐかながわ森林インストラクターの会　平成２４年７月１日発行　通巻第１９６号

森のなかま

２０１２年　７月号
ＮＯ．５１　（継続１９６）

ＮＰＯ法人かながわ森林インストラクターの会　http://www.forest-kanagawa.jp　　発行人　久保　重明
〒243－0014　厚木市旭町１丁目８－１４・グリーン会館　ＴＥＬ046－280－4101・ＦＡＸ046－280－4102

久　保　理　事　長　　語る
『平成 24 年度活動のスタートに当たって』

理事長　久保重明

会員の皆様へ

この１年、会員の皆様方のご支援とご協力を賜り、大過なく今年度の活動を終えることができました。深く感謝申し上げます。 お陰様で、平成 23 年度は 150 件を超えるネットワーク活動を延 900 名近くの会員の協力を得て遂行することが出来ました。この間、業務の事務作業は厚木事務所を中心に動き始め、会へ外部から発展性のあるアプローチも増え、会員へのサービスにも徐々に向上してまいりました。反面、経費（交通費、会議費、通信費など）も増加してきており、それらを補う面から経費節約や事業の収益性への関心も深まり、運営分担金そして研修費負担などをお願いするに至りました。平成 24 年度にも勿論、引き続き取り組むべき問題だと考えております。

会を取り巻く社会環境も変化し、これまでの寄の「水源林パートナー」も大部分が「森林再生パートナー」に移り、現在 39 社・団体となり、県下全体に活動範囲も広がり、それに伴って我々の活動範囲も広がって来ました。また水源環境保全・再生かながわ県民会議（市民事業委員会）ではボランティア活動を支援する役割を会に期待しております。一方、会の中では学校の森林づくり活動の支援や里山保全活動に積極的に取り組もうとする動きも出てまいりました。これらの動きは緒に就いたばかりでこれからの取り組みについては、大いに議論しながら展開しなければなりません。当会の役割は、平成7年の「神奈川県森林インストラクター検討委員会」で表明されたように、
①森林の専門家や組織、②市町村・学校・企業・団体等、③森林財団（現在では、かながわトラストみどり財団）と共に「県民参加による森林づくりの推進」の一翼を担う大きな使命を与えられています。これらのことを再確認し、自負をもってボランティア活動に励んで行きましょう。

平成 23 年度には 8 つの活動方針を掲げ活動してまいりました。信頼される指導者、ボランティア活動の支援、水源林・森林再生パートナー活動支援、新規事業の発掘、情報の発信、里山再生活動の推進、会の組織的運営そして財政基盤の確立などであり、ほとんど継続して行かなければならないものばかりです。 しかしこれらは互いに関連があったり、内容的に重複していたり、そして委員会で継続検討中のものなどあり、整理して次の4つを平成 24 年度の活動方針に致しました。（1）県民参加の森林づくり活動や水源林・森林再生パートナー企業の活動を積極的に支援するとともに参加者から信頼される指導者を目指す。（2）県行政およびその関連機関と更なる連携を図り、 水源林の保全・再生に努めるとともにその啓発をおこなう。（3）財政基盤の充実を図る。（4）当会の情報を外部に積極的に発信する。

最後になりましたが、皆様と共にこの１年活動の安全に万全を尽くし、健康に気を付け、元気で活動に励んで行きたいと思っております。 どうぞ引き続きご支援とご協力をお願い致します。

（写真：　広報部　鈴木（松））

緑の祭典 “かながわの未来の森づくり”2012

5月27日（日） 南足柄市で開催　　後藤 幸雄 （10期）

参加者 緑の少年団 100名、 一般参加者 245名、 幼稚園児 30名、 その他 （総勢 450 名）

2010年5月23日「森を育む あなたの心 森を育むあなたの手」をテーマに「第61回全国植樹祭2010かながわ大会」が神奈川県で初めて開催されました。植樹祭開催を記念して、毎年、緑の祭典が行われ、今年は南足柄市広町の全国植樹祭南足柄会場跡地で行われました。

下見（5／23）も当日も快晴に恵まれ、参加者総勢450名（海外からも多数参加）により、イロハモミジ、キハダ、ケヤキ、コブシ、ヤマザクラ、ヤマボウシ、ヤブデマリの7種780本の苗木が植樹されました。

式典挨拶で、黒川神奈川県副知事は「命輝くマグネット神奈川」の実現に向けて、森林再生には長い年月と県民の皆様のご支援・ご協力が不可欠であり、かながわ森林再生50年構想により、未来につなぐ森林づくりを進めていきます。豊かな水やみどり自然を守る継ぐことなどを紹介いただきました。加藤南足柄市長の森の重要性について挨拶がありました。

県民参加の森林づくり、森林づくり体験講座など二百数十回参加いただいているボランティアの方々の表彰に続き、天皇陛下の詠まれました『雨の中 あまたの人と 集い合い 苗植ゑにけり 足柄の森に』御製碑の前で、来賓と緑の少年団による記念植樹が行われました。

歌手の白井貴子さん（かながわ環境大使）のミニライブで「サクラ サクラ」「マッカチ・カニカニ音頭」「森へ行こう！」が披露されました。

三浦半島小網代の森のアカテガニを守る活動応援歌として、アカテガニをマッカチカニ（真っ赤なカニ）と呼び、「♪マッカチカニ、本当かに♪♪マッカチカニ、本当かに♪」と会場内大合唱となりました。

昼食後、一般参加者150名の参加により、「丸太の森と里山コース」と「大雄山コース」に分かれ森林探訪会を行いました。「丸太の森と里山コース」は、2年前の全国植樹祭で丸太の森に植樹した苗木の生育状況を確認した後、南足柄市里地・里山景観に登録されている大雄町の花咲く里山を経由して仁王門に至るコースです。

コースの途中、ざる菊を600株栽培している山崎政行さんから、南足柄市里地・里山景観やざる菊栽培などの説明があり、ざる菊の咲く10月に又お越しくださいとのことでした。

「大雄山コース」は、植樹会場から最乗寺参道、最乗寺境内を巡り、樹齢350年～500年の杉巨木林の大きさに圧倒されるコースです。当日、最乗寺例大祭があり、全国でも珍しいお寺の保有する神輿や山車を見ることが出来ました。

オイサ・ハイサ、オイサ・ハイサの掛け声に、中南米からの参加者は、リズムにのりのりでした。

参加者を送迎バスで大雄山駅まで送り届けて、怪我もなく、無事終了することが出来ました。

（写真：後藤幸雄氏）

県、財団： 豊丸様 他 関係者
インストラクター： L 坂齋⑦ 竹島③ 渡辺③ 柏倉④ 高崎④ 米山④ 齋藤⑥ 釘宮⑥ 山崎⑦
松村⑧ 三浦⑧ 野田⑧ 飯澤⑨ 辻村⑨ 後藤⑩ 大澤⑩ 大塚⑪ 鳥飼⑪ 上宮田⑪ 碓井⑫

信頼される指導者を目指して

安全管理研修会（危険予知活動とリスクアセスメント）開催！

講師:**安全管理委員会**　滝澤　洋子様　　森林部会　　佐藤　武晴

私達のインストラクター活動では自分自身の安全行動は勿論ですが、参加者の皆さんへの安全配慮が欠かせません。特に活動の半数を占める森林整備に関わる活動では適切な作業指導とともに作業環境や行動に伴う危険要因を把握し具体的な安全注意を促すことが必要です。

今回、危険予知活動（KYK）やリスクアセスメントなど災害防止対策として有効と言われている安全管理手法についての研修会を安全管理委員会の滝澤洋子様を講師として、5 月 26 日（土）やどりき水源林で開催し、日頃、間伐作業に関わる 14 名の参加者が熱心に受講しました。
以下に研修内容の一部をご紹介します。

まずは室内で、危険予知活動とは何かの説明と危険予知訓練（KYT）の実践です。危険予知とは作業の中に潜んでいる危険を危険と気付くことで、作業前のミーティングなどでその作業に潜む危険を短時間で話し合い危険を予知し、これに対する対策を決め、行動目標をたて、一人ひとりが実践する活動が危険予知活動です。ここでは清掃作業の一枚の絵に潜む危険要因を見つける危険予知訓練を実施しました。

その後、間伐作業地に移動し現場における危険予知活動の実践です。
①今日の作業にはどんな危険が潜んでいるでしょう？
②特に危ないのは何でしょう？
③どんな対策が考えられるでしょう？
④今日の行動目標は「○○」にします。
⑤指差し呼称「△△ヨシ！」。
この手順でリーダー役が音頭をとれば、明日からでも危険予知活動が実行出来ます。

＜間伐作業に潜んでいる危険要因は？＞

＜危険要因の洗い出し！　発表の状況＞

間伐作業地では少し場所を変えて、今度は間伐作業の指導をする立場を前提に一人ひとりに危険要因の洗い出しをしてもらいました。室内に戻り、各自がメモしてきた危険要因を「～したとき」・「～したので」・「～になる」の書式で書き出し、作業区分毎に壁に貼り付けて順次発表し合い、講師からお互いが共通の認識を持つよう助言や指導がありました。移動から伐倒・枝払い・玉切り・整理まで重複するものもあるが、およそ 70 数件の危険要因が提示され、一人では気が付かないことにもお互いが認識し合い、危険に対する感性が高まったものと思われます。

この危険要因の洗い出しはリスクアセスメントの出発点です。リスクアセスメントとは、「作業がどのくらい危険か（リスク）をランクづけし事前に評価（アセスメント）すること」です。今日の研修では、2 班に分かれて沢山ある危険要因から 1～2 項目を選択し、これについてリスクの評価、リスクの低減策を検討し、その結果を発表して終了としました。最後に講師から、沢山の危険要因を洗い出すことで危険への意識が高まること、KYK では他人の発言に批判などの口をはさまないことなどの注意が加えられました。閉会時には講師へ大きな拍手が響き、本日の研修が有意義であったものと感じられました。今日参加した方々が研修成果を活かして頂くこと、また、多くの人が安全管理研修に参加し足並みの揃った安全活動が展開されることを期待しています。

（写真:佐藤　武晴氏）

街頭キャンペーン“横浜開港祭”
６月１日、６月２日　（みなとみらい２１臨港パーク）

◆　１日目：　前半好天に恵まれ日差しも強く暑い日の始まりとなりました。

ブースの設置場所は、今までとは随分変わり潮入りの池ステージの上の方です。黄色や白い花の咲く自然環境豊かな、のどかな所、会場のはずれの方でした。「ここまで参加者が来てくれるのだろうか？」と皆一抹の不安を感じながらのスタートとなりました。屋根の無い受付や募金活動、丸太切りには暑くて厳しいものがありました。通りかかった方には、たとえ振られても、また次に声を掛け続けお誘いし続けました。優雅にステージで踊るフラダンスを遠目に見ながら、勧誘は続きます。その内、坂斎さんの手腕により、なんと高校生ギャル 6～7 名の皆さんの参加が実現しました。迫力がありました。がしかし華やかな外見とはまるで違い、熱心に森林講話を聴いて頷き、雨を降らせる実験にもトライしてくれました。

語り手も何時に無く弾んで説明に力が入っていました。この世代の皆さんに森の話に関心を持って頂けるのは、素晴らしく大切な事であると感じました。年配の方や小さなお子さんまで、涼しいブースの中で森の話に耳を傾け、広々とした環境の中で、丸太切りや、ドングリクラフトを楽しんで頂けました。途中から雨が降りだし、蜘蛛の子を散らすように皆去っていきました。

この日の参加者は　158名　（子供35名、大人123名）でした。

（記　10 期　時田）

関係者　：　財団１名（永島様）
インストラクター16 名　L 足立④　井出①　落合③　国分③　高橋③　渡辺③　安部⑤　齋藤⑥
小野⑦　坂斎⑦　小澤⑨　中島⑨　村井⑨　大澤⑩　時田⑩　加藤（久）⑫

ブース全体（受付）

紙芝居／クイズ

丸太切り（間伐体験）

クラフト

◆　２日目：　曇りの丁度よい気温のスタートとなりました。

祭りの大会委員長は晴れる事を祈り、頭をまるめて臨んだそうです。願いはみごとに通じ晴れ間もみられました。場所が悪く出だしは人出も余りなく対応する我々には丁度良い人数と思っていたら、昼近くから来る来る、ひとひとです。ガチャポンではクジが当るたびに我がインストラクターの会が誇る O 嬢の声が周りを盛り上げていました。紙芝居は4人交替ですがピッチを上げないと捌ききれない状態でした。ベテランインストラクターは昨日からの連投で最後は声が割れてきてしまいました。丸太切り、クラフト作りのインストラクターも目がくぼみがちになりました。正しい流れは受付⇒紙芝居／クイズ⇒間伐体験（台座切りだし）⇒クラフト作りですがズルをして間伐体験にいきなり行く人もいました（今後はルール破りには厳しくしたいです）。子供はもちろん夢中でしたが親も夢中になっていました。中にはおばあさん一人の人もいました。外人の人もいました。やはり横浜ですね。18時に終了しインストラクター達は疲れを癒す B-R で一杯でした。20:20～50 分まで花火が 3000 発もあがり、M&M の2人は最後まで花火観賞。リーダーMさんはさらに荷物の搬出があるので22時ごろまでいました（御苦労さまでした）。

今日の参加者は　747名　（大人350名、子供397名）　　来年は1000人が目標です！！

（記　11 期　松本）

関係者　：　財団１名（籾山様）・ボーイスカウト１名（和田様）
インストラクター17 名　L 森本⑤　菊地①　落合③　高橋③　竹島③　渡辺③　足立④　伊藤⑦　武本⑦
草野⑧　中島⑨　青木⑩　大澤⑩　一重⑪　大塚⑪　松本⑪　加藤（久）⑫

（写真：井出　恒夫氏（1期）、松本　保（広報））

探　鳥　会　（自然観察部会）

１回目　５月６日（日）、２回目　５月１２日（土）　箱根ビジターセンター～湖尻

講師インストラクター：　3期　高橋　恒通　様　、　7期　武本　弘次　様

◆ GW最終日の5月6日、箱根ビジターセンター周辺で開催された探鳥会に参加しました。先生は、3期の高橋様、7期の武本様です。小田原からの参加者に現地で2名が加わり、17名が野鳥観察を楽しみました。小雨が降り、鳥の声が聞こえない時は、植物班に変身しながら、車いすでも移動できると言う歩道をたどりました。名人は、鳴き声が聞こえないのに鳥を見つけ、素早くスコープの視野に入れて皆が覗ける様にしてくれると言う凄技を見せてくれました。肉眼で見えても双眼鏡で捉えるのは難しく、練習を積み重ねるしかないようです。野鳥観察小屋の前で昼食時、講師の「渡り」のお話を聞いていると、本日の主役:キビタキが数回現れ、みんな大興奮。ルビー色に透けるアケビの花を見た後、最後尾の私は2羽のキビタキを発見。夢中になっているうちにはぐれ、追いついたら冠ヶ岳をバックに皆さんは集合写真撮影の最中でした。鳥合わせの結果、本日見聞きできたのは22種でした。私には朝のNHKラジオから始まったキビタキ三昧の一日でした。　（記　12 期　石川）

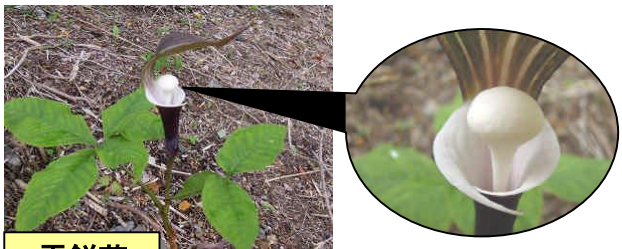
キビタキ

◆ 5月12日の箱根は1回目に出会った鳥達との再会が期待できる心地よい風薫と天気に恵まれ、県鳥・県木・県花を織り交ぜた名人の絶妙な語り口に触発されたか、早速、一筆啓上とホジロがお出ましです。良く通る澄んだ声で木のてっぺんから♀にアピールする姿を暖かい目で観察しました。昼食時は鳥の性質・託卵や渡りについての講義を戴き、アネハヅルがヒマラヤを越える過酷さを想像。一時の雨にしばし休憩をはさみ、雨上がり後はカワラヒワ・エナガ・コガラお出ましに顔がほころぶ。芦ノ湖畔（湖尻水門口）ではキンクロハジロが一羽、飛び立つ日を決めかねている様子。新緑の箱根での探鳥会はまさに鳥のとりこ、鳥にとりつかれ、とりわけ名人の鳥ファイル（撮りためた写真と羽根のコレクション）に一同驚嘆。帰りのバス停に向かう途中に初めて見る植物がありました。名人は鳥だけではなく植物名人で即座に珍しいユキモチソウと教えて頂きました。

（記　11期　上宮田）

ホオジロ

キンクロハジロ　♂



雪餅草

参加者　5／6　（1回目）　菊地①、黒澤⑧、野田⑧、石原⑧、村井⑨、小林⑨、内野⑨、杉崎⑩
鳥飼⑪、柴⑪、佐藤（裕）⑪、松永⑪、上宮田⑪、碓井⑫、石川⑫
5／12（2回目）　鈴木③、女川⑨、松本⑪、上宮田⑪、小池⑫、安井⑫、渡辺（朋）⑫
（イラスト:広報　大塚、写真:雪餅草　11期　上宮田氏　、キンクロハジロ　広報　松本）

連載中の　高橋　恒通　様　の私の認識が『　100回　』となります。
今月号は探鳥会もありましたので来月号で100回を
掲載いたします。ご期待ください。

活動短信

5/8～6/2(一部6/8)
紙面の都合上、次号になるものもあります。
予めご了承下さい

◆鈴廣蒲鉾本店　新入社員研修(間伐)

日　5月8日(火)　10時～13時　曇り
場　やどりき水源林「恵水の森」
参　鈴廣蒲鉾本店　スタッフ:4名
　新入社員15名(男性4名、女性11名)
県　自環保　水源の森林　推進課　内田様
イ　L齋藤(武)⑥　徳岡⑪

新入社員教育として自然環境の保護と森づくり体験をパートナー林「恵水の森」で間伐作業を実施した。9時に風祭の事務所を出発し10時に到着した。早速レクチャー、諸注意、体操などを済ませ、林道観察をしながら現場に到着した。

全員が未経験なので2班に分け細部注意、間伐技術を説明、作業に取りかかった。桧は25～30年位の太さで樹高もあり初心者にはきつい作業であったが、7人で1時間を要し、かかり木にもならず豪快に倒れ全員の拍手と歓声があがった。年輪を数えたら30本あった。2本目は無理なので各自コースター作りなどで12時になりパートナー林の看板前で記念撮影後、道具の手入れ、20分間の森林講話(①木はリサイクル資源「木を使って木を育てよう」、②森林の役割「17種の保安林」などを説明)、今日はヒヤリハットもなく無事終了した。本日の間伐作業は新入社員で未経験者なので特に安全第一を心がけて作業に臨んだ。　(記　6期　齋藤　武久)

◆平成24年度川崎市里山ボランティア育成講座(第1回)

日　5月19日(土)9時30分～15時
場　川崎市等々力緑地
参　一般市民による講座メンバー35名
スタッフ　川崎市公園緑地協会ほか8名
イ　L金森⑩　加藤⑧　清水⑧
　大橋⑪　福島⑪　門澤勇⑫

計6回講座の第1回目。市民の関心が高まりまた講座の好評も加わって参加の問い合わせが盛況で、昨年度の定員(24名)を大幅に超える申込みがあり、そのうち40名を受け入れての開講となった。開講式に続き2つの講義を行った。1. 川崎市建設緑政局企画課の江口大氏から「川崎市緑の基本計画を読む」について市の刊行物に基づき説明がされた。皆さんの関心が高く身近な事例をあげての質問が続き、行政との対話ができる貴重な機会となった。2. 日本大学生物資源科学部の糸長浩司教授から「里山暮らしの再生－放射能汚染された飯館村から考える－」について前半は資源豊富な宝の山としての里山利用、後半は福島原発事故に伴う飯館村再建に向けた状況と先生の提案が熱く語られた。

午後からは屋外で間伐の実技を行う。4班に分かれて各インストラクターから道具の説明、準備体操、伐倒方向の考え方や作業の段取り、注意事項について説明がされた。基本的かつ丁寧な作業を知ってもらうために、ロープを使った正確な伐倒、枝の細断、玉伐り、切り株の処理、現場の清掃など時間をいっぱいに使って体験した。各班15センチ程度のマツやマテバシイを1時間半かけて1本ずつ伐採した。うち1本は万が一、反対方向に倒れた場合、死角となっている歩道を直撃する恐れがあったため加藤インストラクターに通行制限の指揮をお願いした。参加者は日頃から鋸を使い慣れていない方が多く、思ったように鋸が進まない、伐れないという感想が聞かれた。最後に道具は綺麗に清掃して返却することを学んだ。

次回は6月9日(土)新川崎・創造のもりにて、講義「樹木のはなし」「記録のつけ方、残し方」、作業「毎木調査」を予定する。　(記　10期　金森)

◆県民参加の森林づくり(竹・アオキの除伐)

日　5月19日(土)　8時30分～13時30分　、晴
場　中井町中井中央公園
参　応募者　97名
財　永島様　籾山様
イ　L波多野⑨　大塚①　国分③　柏倉④　米山④
　善波⑥　伊藤⑦　白畑⑦　鈴木⑦　水津⑨辻村⑨
　村井⑨　後藤⑩　湯浅⑪　石川⑫　澤村⑫

天候は晴天、気温は暑すぎず寒すぎずで、とても良いコンディションであった。参加者を乗せたバスは、小田急線秦野駅を予定通り出発し渋滞もなく現地へ到着、全員管理事務所(野球場)の前に集合した。永島氏・波多野より事前の注意事項の説明を行い中井町町長にご挨拶を賜り、準備体操の後に各班(5 グループ)に別れ作業現場へ向かった。現場は元々混合林だが、竹が繁茂している状態。風で折れた竹や以前伐採した竹が散乱していたため、現場整備しながらの除伐作業となった。参加者は初心者・ベテランが混ざっていたが、インストラクターの指導の元、しっかりと作業していただけたと感じた。昼食後にミニ講座を行い、予定通りに帰りのバスに乗車し秦野駅にて解散できた。

インストラクターの反省会でのヒヤリハットの報告として、竹の上部に太いツルが絡んでいて、切り倒す際に落下してきた。竹の上部が折れていて、倒す前に落下した※共に、けが人は無。 ヒヤリハット以外では、① 1班エリアにスズメバチの巣の報告があった。(財団に報告済み) ②今回は枯竹・以前伐採済みの竹の片付けが多く参加者への作業内容の説明時にはそのことを伝えた方が良いのでは？との意見があった。　(記　9期　波多野)

◆パートナー林保全活動
(間伐、林内整備、癒し体験、ワークショップ)

日　5月20日(日)　10時～15時　晴れ
場　やどりき水源林　延寿の森、いやしの森
スタッフ　槐の会　當麻様、軽部様、他5名
参　槐の会74名(申し込み87名)
県　自環保　水源の森林　推進課　内田様
イ　L福島⑪　高崎④　森本⑤　齋藤⑥　谷津⑦　若林⑦
　草野⑧　高橋⑨　宮下⑩　角田⑩　真貝⑪

交通事情によりバスの到着が少し遅れましたが、挨拶・体操と順調に進み班ごとに延寿の森の間伐 16 名、小道整備、アニマルヘッジ作り 25 名、いやしの森間伐 12 名、小径等整備 21 名それぞれに作業に入りました。普段はリピーターが多い槐の会ですが今回は新規の方も多く新鮮さに満ち溢れました。安全第一をめざし延寿の森では 80 年近いヒノキの間伐に歓声が上がりました。槐の会でご用意いただいた鹿シュチューの昼食を終え午後のメニューに入りました。五感による森林癒し体験コース 52 名。全体の 70%近い方が参加されました。4 班に分かれ新しい試みのハンモックを使い、揺らぎの世界を覗いたり、ハーブティーで心安らかになり、コース終了後檜の香り袋を作り香りでも皆さん森林浴を楽しみ、お持ち帰りしていただきました。又ワークショップでは、ドングリクラフトと、ミニチュアシカ作りの 2 班に分かれ集会棟で行われ、皆さんとても熱心に作業に取り組みました。ワークショップは事前のモノ集めと下地作りが大変です。担当インストラクターの努力は、参加された皆さんの満足された笑顔で実りました。

（記　11 期　福島）

◆茅ヶ崎市立北陽中学校「森林・間伐学習」

日　5 月 18 日(水)10 時～13 時　天　晴れ
場　相模原市緑区長竹・承継林
参　2 年生 4 ｸﾗｽ(生徒 125 名、教師等(大人)9 名)
財　永島様、古舘様
イ　L　武者⑦　井出①　島岡③　宮本④　足立④
鈴木(松)⑤　小野⑦　黒澤⑧　齋藤(彰)⑧
鈴木(敏)⑧　小澤⑨　村井⑨　内野⑨　福島⑨
小笠原⑩　波多野⑪　松本⑪　赤崎⑫

気候は作業するにはグッドコンディション。インストラクターの区分け地等の下見が終わった頃、生徒達の声が聞こえてきた。蒼のジャージの生徒諸君がみえた。生徒の挨拶に続いて武者Lより間伐の必要性、安全とチームワークについてお話があった。9班(インストラクターは各班2名づつ)に分かれ各インストラクターからヘルメット、鋸の装着方法などを受け、再度安全、作業でのポイントの追い口・受け口・ツル、ロープかけの説明を受け、作業にかかった。鋸を使うのが初めての子が多く、なかなか木が切れないが、それでも何とか切り、皆の力を合わせロープを引いて木を倒した。各班2～3本の間伐だった。生徒諸君は切り終えた木の年輪を数えたり、匂いを嗅いで森での作業は今までに無い爽快感だと言っていた。作業も無事終わり生徒諸君とお別れがきた。ヒルに好かれてしまった生徒が2人程いましたが大した被害ではなかったので一安心だった。

（記　11期　松本）

追記）その後、生徒達からお礼の手紙を頂きました。

◆　横浜市立岩崎小学校　林業体験

日　①5 月 21 日(月)((90 分)講話
②6 月 8 日(水)10 時～14 時 30 分　晴れ
場　①岩崎小学校、②相模原市緑区長竹・承継林
参　5 年生(生徒 72 名、教師等(大人)9 名)
財　永島様、古舘様
イ　L　小野⑦　国分③　堀江④　佐藤⑤
武川⑥　齋藤⑥　野田⑧

現在学習中のテーマ『林業に携わる人々の工夫や努力について考える』『林業が抱える問題点について考える』に関し 5/21 に野田・小野の2名が当校にて 90 分に亘って、2 ｸﾗｽの生徒に授業を行った。校外での実地学習は 6/8 長竹にて間伐とコースター作りを体験、林外は夏を思わせる暑さであったが林内は爽快な風と小鳥のさえずりで気持ちの良い環境の下、事故も無く無事定刻には終了した。対象木は 15 年生の檜でかなり密生しているため、かかり木も発生したが 1 班 10 人前後にインストラクター1 名で力を合わせての作業で伐倒時には一斉に歓声が上がった。枝打ち、玉切、コースターの順で全員がしっかりと鋸の使い方も体験、いい汗をかくことが出来た。昼休みや休憩時間を利用しての林業に関する講話では積極的に質問も出たことや作業後の感想でも林業の大変さについての発言が多かったこと等からもやはり体験に勝るものは無いと実感した活動でした。（記　7期　小野）

◆パートナー林保全活動(間伐・自然観察)

日　6 月 2 日(土)　10:00～12:00　天気　うす曇
場　山北町世附水源林　三菱倉庫パートナー林
参　三菱倉庫株式会社　社員　37 名
県　自環保　水源の森林　推進課　内田様
イ　L　斉藤⑥　小沢⑨　松山⑩　上田⑩

前日まで天気の心配があったが、薄日の差す絶好の活動日和となった。10:00 世附キャンプ場前の駐車場にバスは予定通り到着し参加者を出迎え活動林まで案内し、参加者全員で集合写真を撮影し本日の活動が始まった。初めての間伐作業であるため間伐作業中に伴う危険性とそれらを回避するための諸注意を斉藤リーダーが話した。準備体操の後各班に分かれて作業場所に向かった。森のこと、間伐のこと、木を切るときの方法、受け口、追口、ツルの作り方とその役目、など作業に伴う詳細な説明を行った後、間伐作業に取り掛かった。始めは鋸の扱いに慣れていないこともあり苦心する場面も見受けられたが、苦労の末に木が倒れるさまに迫力を感じ、枝落とし、玉切と一連の作業を終えた頃には鋸の動きもスムーズになり、森の中で作業する楽しさと厳しさを各自体験できたものと思っています。倒した木を輪切りにしてコースターや鍋敷を作って間伐作業は終了した。

自然観察グループは、源五郎沢林道を往復し生き生きとした初夏の自然を満喫した後、間伐エリアで間伐作業を見学した。作業終了後道具の手入れをして三菱倉庫パートナー林の保全活動を終了した。参加者を送り出した後、林縁部で倒した木の先端部が電線に掛かり時間内に処理することができず、それらの処理を終えて本日の活動を終えた。事故には至らなかったが、あらゆることに気を配り最悪の状況を想定しながら作業計画を立てることの重要性を身を持って体験した。　（記　10期　上田）

やどりき水源林ミニガイド

・６月のトピックス

おいらの出番だぞ！**カジカガエル**

７月の水源林

暑さ対策と爽やかさを求めに水源林を訪れてください。森の案内人がご案内します。ご家族連れ、お友達を誘ってどうぞ。清流川遊びもできますよ！！

「森の案内人」情報

●実施時間：毎週土曜・日曜・午前10時・午後１時１～2時間程度（12月１月２月休止）
●集　合：水源林入口ゲート前
●内　容：森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ・手入れなどについて説明いたします。
参加自由、参加費無料
＊10 人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。
●問合せ：（公財）かながわトラストみどり財団　TEL:045－412-2255
携帯：０９０-８５８０-５３４８
fax:045－412-2300
● ホームページ:http://www.ktm.or.jp
● E-mal:midori@ktm.or.jp
● やどりき水源林までの道順
小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄（やどりき）」行き乗車約 25 分。バス下車後（案内板あり）川沿いに徒歩 35 分。
寄大橋の右横が水源林ゲートです。

ｲﾍﾞﾝﾄ情報　＆　ご案内

ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ　森･川･海のつながりを考える
平成24年7月12日（木）13:00～16:30
木材会館定員300名　参加費無料
◆林野庁サイトのフォームより申し込み
URL:https://www.contact.maff.go.jp/rinya/form/1755.html
話題提供(13:00～)　＆パネルディスカッション
・森は海の恋人　畠山重篤氏
・お魚殖やす植樹運動　平賀由喜子氏
・河川環境維持の取組　秋山雄司氏
・水源地域の森林整備　大久保憲一氏
・美しい日本の森林を守る木材増殖礁　他
その他（詳細は林野庁ホームページ）

◇森のなかま原稿募集◇

会員・購読の皆様からの原稿を募集しています。
＜広報全般についてのお問い合わせ＞
小沢章男まで
Mail;a.ozawa@tbz.t-com.ne.jp
Tel：0467 -52-2191

送り先

＜①電子配信担当＞　森　義徳
〒232-0053
横浜市南区井土ヶ谷下町 16－3-202
Tel/090-5433－7784
Mail:shinrin.inst.denshihaishin@gmail.com
＜②メール・手書き原稿送り先＞
【本誌】松本　保
〒246-0037
横浜市瀬谷区橋戸 3-46-17
Fax: 045-301-9401
電話連絡先:090－7962－3168
Mail：matsutamo@jcom.home.ne.jp
【別冊】水口俊則
〒250－0871
小田原市下堀 123
Tel/Fax：０４６５－４２－７２４０
Mail：minagold109@plum.plala.or.jp
【CC で】竹島　明
〒238－0045
横須賀市東逸見町３－７
Tel/Fax：０４６－８２５－９２８１
Mail:12nahemi0818@kce.biglobe.ne.jp

原稿は随時受け付けています。

編集後記

★梅雨のころは小さな私の庭で次から次へと花や実がつき、一年で一番楽しいシーズンです。そして山はもっと楽しいですね。　（赤崎）
★蒸し暑い日が増えてきました。水分補給と紫外線対策、そして丹沢ではヤマビル対策も忘れずに！！（先日やどりきで早速やられました）　（加藤）
★総会で本誌編集バトンタッチ宣言！会報に解放されましたが、広報部雑用係・総務部NW活動サポート隊でお世話になります。
今後ともよろしく！！　（村井）
★この季節になると近くの農家のぶどう畑で摘粒作業のお手伝いをするのであるが、シーンと静まりかえった一帯にかならず「ホトトギス」が鳴き始める。農作業と二十四節気の事象は今も生きてるな～　（徳岡）
★今年も、台風や集中豪雨などがとても心配ですね。　でも、天気のいい日は水源林で森のエネルギーを一杯もらいましょう！　（水口）
★24年度の総会において広報部の活動方針を高らかに発表させて頂きました。新しいメンバーに乾杯！！（小沢）
★難燃木材にするテクノロジーが開発されたそうです。XX 剤を特殊設備で浸透させ高温になるとガラス質に変化。近代科学と伝統材のコラボがうまくいくことを期待します。　（松本）

◇年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込みください。
郵便振替口座 00230-0-2454
かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込みください。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記してください。
振替用紙到着の翌月号から12回／1年間お届け致します。
（頒　価　200円　送料共）

編集人:小沢　章男
事務局:竹島　明、
広報部:　水口俊則　松本　保
真貝　勝　鈴木朗
鈴木松弘　大塚晴子
村井正孝　徳岡達郎　赤崎さほり
加藤暖子　森　義徳

松田町寒田神社例祭の「禊ぎ」 7月31日　寒田神社境内　十文字橋周辺

山麓の オ ア シ ス
～お食事処～
汗の後は冷たいビール
こ　ま　ち
小田急　新松田駅
踏み切り際
緑の募金箱協力店